伝統工芸産地における住居との関係からみた事業所の立地動向に関する研究

A STUDY ON LOCATION TREND OF WORKS FROM THE RELATION WITH
DWELLING-HOUSE AT TRADITIONAL CRAFT PLACE

小森宗泰*, 野嶋慎二**

Muneyasu KOMORI and Shinji NOJIMA

This paper aims to clarify the location characteristic of works, the relation between works and dwelling-house and the reason for selecting location of works founded in recent years.

Findings are as follows.

1. In Wajima-city, works are located in suburb in recent years. In Yamanaka-town, more works are located in suburb by construction of industrial complex. In Sabae-city, works are located in officially designated land.

2. There are much the works in which the house becomes one body in every city.

3. In Wajima-city, manager of works select the location by aiming at the improvement in the life.

Keywords: Traditional craft, Local city, Inner City, Industry Promotion, Living Environment, Residence

伝統工芸、地方都市、中心市街地、産業振興、住環境、居住

1. 研究の目的と方法

全国の伝統工芸を持つ多くの都市では産業の衰退と後継者不足により産地全体としての活力が低下している。しかし、伝統工芸産地は単に事業所が集積している工業団地ではない。古くから伝統工芸を生業とした固有の生活文化を形成しており、これらを継承し街としての活力を持続させていくことは歴史的にも地域資源の活用という視点からも重要な課題である。ここで伝統工芸産地の活力を持続していくため次の2つの課題を考えたい。

第一に新規事業所の操業を維持していくための受け皿としての住宅の課題である。一般に伝統工芸産業は零細な事業所により成立しており、事業所と住居が一体となった職住一体型の事業所が多く、住宅は事業所創業の重要な受け皿となっていると考えられる。これらの受け皿を供給していくには住宅供給サイドからの支援も重要である。

第二、郊外化による中心部の空洞化の課題である。これまでは産地の問屋による流通経路が確立しており、郊外化しても事業が成立していた。しかし、近年、これだけでは販売が困難であり、事業者が直接産地で販売する仕組みが必要とされており、各地でその試みが行われている⁽¹⁾。このとき中心市街地は、まちなか観光を行う来訪者にとっては購入の場であり、訪れる場である。事業所や住宅や店舗が複合した伝統工芸産地としてのまちなみは地域文化を体感する重要な観光資

源となるが、郊外化によりこれらが失われている。

以上のように創業の場と居住の場を中心市街地で作り、中心市街地の生活文化やまちなみを維持していくことは産地の活力再生のためには重要な要件の一つである。このためには産業振興施策だけでなく、住環境の向上も含めた住宅施策やまちづくり施策との連帯した総合的な施策が必要とされる。

本研究に関連する既存研究では、地場産業を対象としたツーリズムに関する研究⁽²⁾や伝統産業を地域資源とした地方都市における観光化の手法に関する研究⁽³⁾、地場産業の事業所の立地動向と職住形態特性を分析した研究⁽⁴⁾がみられる。しかし同種の伝統工芸産業を持つ複数の産地について住居との関係から事業所の立地動向を比較分析した研究はみられない。

以上のことから、本研究では、石川県、福井県の伝統工芸産地の中から漆器産業を地域資源としている3都市（輪島市、山中町、鯖江市河田地区）を研究対象とし、事業所の郊外化の実態を明らかにする。さらにその要因を業種特性と住宅立地との関係から明らかにし、住宅が事業所の受け皿として重要な役割を果たしていることを明らかにすることで、産業振興施策と一体となった住宅施策を行うための基礎的な知見を得ることを目的としている。このため以下の通りに論を進める。

* 福井大学大学院工学研究科ファイバー・アミニティ工学専攻
大学院生

** 福井大学工学部建築建設工学科 助教授・博士(工学)

Graduate Student, Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Fukui University

Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Fukui University,
Dr. Eng.

第一に、輪島市、山中町、鯖江市河田地区、3つの産地の業種特性を明らかにする。さらに産地ごとに1988年以前と以降の創業に分類して立地動向を分析することで、産地ごとの近年の郊外化の実態を明らかにする。

第二に、産地ごとに事業所と住居の立地及び事業所に至る経緯を明らかにし、住居との関係性を明らかにする。

第三に、近年創業した事業所について、職住形態別に立地場所の選定理由を分析することで、産地ごとに住宅の立地がどのように事業所の立地に影響しているかを明らかにする。

2. 調査概要

(1) 対象都市の選定

北陸3県（富山県、石川県、福井県）で経済産業省の伝統的工芸品目は21品目あり、その産地は富山県で4都市、石川県で6都市、福井県で5都市あり、北陸3県にとっても伝統工芸は重要な地域資源となっている（表-1）。このうち漆器産業の産地が6都市あり、他の業種に比べ最も多い。北陸3県の伝統工芸品のなかで企業数についてみると輪島塗りが最も多く、山中漆器が5番目、越前漆器が6番目に多くなっている。従業員数についてみると輪島塗りが最も多く、山中漆器が4番目、越前漆器が5番目に多くなっている。これより漆器産業は北陸3県の伝統工芸品のなかでも主要な産業であることがわかる。以上のことから漆器の産地である石川県輪島市（輪島塗り）、石川県山中町（山中漆器）、福井県鯖江市（越前漆器）を対象都市とした。なお、表-2より、富山県高岡市（高岡漆器）、石川県金沢市（金沢漆器）、福井県小浜市（若狭塗り）は、事業所数、従業員数、生産額が他産地と比べ著しく少ないため、対象外とした。

(2) 対象都市の業種特性

漆器産業の業種を工程の内容から「販売工程」「加飾工程」「塗装工程」「木地工程」の四つに分類した⁽¹⁾。図-1をみると、輪島市、鯖江市

市では産地内の全事業所に対し販売業の事業所の占める割合が、それぞれ58.5%、63.0%と最も大きい。これは、輪島市、鯖江市の販売業のなかに塗装業も行う事業所も含まれているためである。山中町では加飾業の事業所の占める割合が26.9%と最も大きくなっており塗装業（25.1%）、木地業（24.0%）も高い割合を示す。輪島市、鯖江市は販売業が多く、山中町では販売業よりも製造業を専門とした事業所が多くなっていることがわかる。表-3をみると、1988年以降に創業した事業所の割合が最も大きい産地は鯖江市で21.5%、次いで輪島市が11.3%、最も割合が小さい産地は山中町で6.2%となっている。業種別にみると、輪島市では加飾工程が16.0%と最も割合が大きく、山中町、鯖江市では塗装工程がそれぞれ13.0%、37.5%と最も割合が大きい。これより、輪島市では加飾工程、山中町、鯖江市では塗装工程の事業所が創業する傾向が強いことがわかる。

表-2 漆器産地の事業所数・従業員数・生産額

	事業所数（件）					
	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
輪島塗り	792	769	734	699	667	657
山中漆器	630	615	600	600	587	540
越前漆器	332	329	325	314	298	295
高岡漆器	101	101	101	99	92	92
金沢漆器		50	48	46	46	46
若狭塗り	15	13	10	10	9	9
	従業員数（人）					
	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
輪島塗り	2512	2408	2303	2140	1967	1918
山中漆器	4300	4000	3800	3500	3250	2900
越前漆器	1309	1304	1295	1267	1168	1055
高岡漆器	401	401	397	353	285	235
金沢漆器		69	67	60	60	58
若狭塗り	47	45	40	40	39	39
	生産額（百万円）					
	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
輪島塗り	10500	10000	9500	9000	8500	8000
山中漆器	31500	31000	29000	26500	22500	20000
越前漆器	12000	12000	11000	11000	9000	9000
高岡漆器	1960	1780	1600	1400	1060	1030
金沢漆器		350	350	350	350	350
若狭塗り	72	70	60	60	50	45

表-1 北陸3県の伝統工芸品の企業数・従業員数

品目	産地	企業数(件)	従業員数(人)
輪島塗り	石川県輪島市	813	2734
九谷焼	石川県寺井町	400	1800
高岡銅器	富山県高岡市	377	2688
加賀友禅	石川県金沢市	359	940
山中漆器	石川県山中町	280	1300
越前漆器	福井県鯖江市	240	1265
金沢泊	石川県金沢市	200	1000
井波彫刻	富山県井波町	150	300
越前打刃物	福井県武生市	101	269
高岡漆器	富山県高岡市	92	235
越前焼き	福井県宮崎村	81	146
金沢仏壇	石川県金沢市	61	133
金沢漆器	石川県金沢市	50	100
七尾仏壇	石川県七尾市	40	130
越前和紙	福井県今立町	43	228
庄川挽物木地	富山県庄川町	34	121
越中和紙	富山県八尾町	10	91
若狭塗	福井県小浜市	9	39
牛首紬	石川県鶴来町	5	80
加賀織	石川県金沢市	5	100
若狭めのう細工	福井県小浜市	5	8

図-1 産地ごとの業種別事業所構成比

表-3 産地ごとの業種別事業所件数

	販売業	製造業			合計
		加飾	塗装	木地	
輪島市	281	163	-	36	480
	28(10.0%)	26(16.0%)	-	0(0)	54(11.3%)
山中町	66	74	69	66	275
	1(0.15%)	4(5.4%)	9(13.0%)	3(4.5%)	17(6.2%)
鯖江市	126	26	24	24	200
	23(18.3%)	4(15.4%)	9(37.5%)	7(29.2%)	43(21.5%)

※注 上段は工程ごとの事業所件数。下段は1988年以降に創業した工程ごとの事業所件数。
() 内はその割合を示す。輪島市の塗装工程は、販売業を営む問屋が併せて行っている

表-4 産地ごとの業種別事業所件数

販売業
 加飾業
 塗装業
 木地業
 黒塗りは1988年以前に創業した事業所
 白抜きは1988年以降に創業した事業所

		輪島市			山中町			鯖江市		
		中心市街地	中心市街地以外	総計	中心市街地	中心市街地以外	総計	用途地域	用途地域以外	総計
1988年以前に創業した事業所	販売	157 (62.1%)	96 (37.9%)	253	19 (29.2%)	46 (70.8%)	65	96 (93.2%)	7 (6.8%)	103
	加飾	69 (50.4%)	68 (49.6%)	137	20 (26.6%)	50 (71.4%)	70	20 (90.9%)	2 (9.1%)	22
	塗装				10 (16.7%)	50 (83.3%)	60	15 (100%)	0 (0%)	15
	木地	20 (55.6%)	16 (44.4%)	36	21 (33.3%)	42 (66.7%)	63	17 (100%)	0 (0%)	17
	合計	246 (57.7%)	180 (42.3%)	426	70 (27.1%)	188 (72.9%)	258	148 (94.3%)	9 (5.7%)	157
1988年に特に創業した事業所	販売	4 (14.3%)	24 (85.7%)	28	0 (0%)	1 (100%)	1	19 (82.6%)	4 (17.4%)	23
	加飾	5 (19.2%)	21 (80.8%)	26	1 (25.0%)	3 (75.0%)	4	4 (100%)	0 (0%)	4
	塗装				0 (0%)	9 (100%)	9	7 (77.8%)	2 (22.2%)	9
	木地	0	0	0	0 (0%)	3 (100%)	3	7 (100%)	0 (0%)	7
	合計	9 (16.7%)	45 (83.3%)	54	1 (5.9%)	16 (94.1%)	17	37 (86.0%)	6 (14.0%)	43

NII-Electronic Library Service

年以降に創業した事業所では、中心市街地に立地している事業所は販売4件(14.3%)、加飾5件(19.2%)、木地0件と、中心市街地に立地している事業所の割合が著しく低い。輪島市では1988年以降に創業した事業所は郊外に拡散していることがわかる。

山中漆器の事業所は、図2より中心市街地⁽⁶⁾よりも郊外に多くみられ、なかでも上原漆器団地に集積している。山中町では、就業の場が中心市街地ではなく郊外、特に上原漆器団地にあることがわかる。1988年以前に創業した事業所258件のうち78件(25.8%)が上原漆器団地⁽⁷⁾に立地しているのに対し、1988年以降に創業した事業所17件のうち4件(23.5%)が上原漆器団地に立地している。また、表4をみると、1988年以降に創業した事業所17件のうち中心市街地に立地しているのは加飾業が1件のみであり、近年さらに郊外化が進行している。山中町では、1988年以降も上原漆器団地が就業の場となっており、上原漆器団地周辺に事業所が立地している。

越前漆器の事業所は、図2をみると用途地域内⁽⁸⁾に集積している。なかでも河和田漆器神社周辺に集積している。鯖江市河和田地区では、就業の場が用途地域内であることがわかる。表4より1988年以前では94.3%の事業所が用途地域内に立地している。また、1988年以降に創業した事業所において用途地域内に立地している事業所が37件(86.0%)、用途地域外に立地している事業所が6件(14.0%)となっており、用途地域内での立地が多くみられる(図2)。これより鯖江市河和田区では1988年以降も用途地域内が就業の場であることがわかる。

以上、漆器産業の事業所の立地は3地区でそれぞれ特色がみられる。輪島市では近年事業所の郊外化が進行しており、住宅団地内に立地する事業所が存在し、住宅地の郊外化とともに事業所の郊外化が進行している。山中町は漆器団地の建設によって郊外化が著しく進行している。鯖江市では、用途地域内で事業所が集積し、近年もその傾向がみられる。

4. 職住形態と職住距離

(1) 産地ごとの職住形態

各産地の職住形態をみると、表5より1988年以前に創業した事業所のうち職住一体型事業所の割合は、輪島市で87.2%と最も高く、次い

表-5. 産地ごとの職住形態

		1988年以前に創業した事業所			1988年以降に創業した事業所		
		一体	分離	計	一体	分離	計
輪島市	中心市街地	178 (89.0%)	22 (11.0%)	200	5 (71.4%)	2 (28.6%)	7
	中心市街地外	129 (84.9%)	23 (15.1%)	152	34 (89.5%)	4 (10.5%)	38
	計	307 (87.2%)	45 (12.8%)	352	39 (86.7%)	6 (13.3%)	45
山中町	中心市街地	43 (87.8%)	6 (12.2%)	49	0 (0%)	1 (100%)	1
	中心市街地外	83 (76.9%)	25 (23.1%)	108	7 (58.3%)	5 (41.7%)	12
	計	126 (80.3%)	31 (19.7%)	157	7 (53.8%)	6 (46.2%)	13
鯖江市	用途地域内	84 (85.7%)	14 (14.3%)	98	19 (82.6%)	4 (17.4%)	23
	用途地域外	24 (88.9%)	3 (11.1%)	27	8 (66.6%)	4 (33.4%)	12
	計	108 (86.4%)	17 (13.6%)	125	27 (77.1%)	8 (22.9%)	35

注) 上段は事業所件数。()内は中心市街地、中心市街地外にそれぞれ立地している全事業所数に対する職住一体型、職住分離型事業所の割合(鯖江市については用途地域、用途地域外にそれぞれ立地している全事業所数に対する職住一体型、職住分離型事業所の割合)を示す。

また、職住形態が不明の事業所は除いてあるので表1、表4の合計数とは異なる。

図-3. 分離型事業所の職住距離

図-4 職住分離型事業所の事業所と住居の分布図

で鯖江市が86.4%となっており、最も低いのが山中町で80.3%となっている。いずれの産地においても職住分離型事業所よりも職住一体型事業所の割合が多くなっている。1988年以降に創業した事業所のうち職住一体型事業所の割合は輪島市で86.7%と最も高く、次いで鯖江市が77.1%となっており、最も低いのが山中町で53.8%となっている。

輪島市、鯖江市では職住一体型事業所の割合が高く、山中町では若干低いという特性が続いている。

(2) 職住分離型事業所の職住距離

図3より職住分離型事業所の事業所と住宅の距離(職住距離)をみると、産地内の全職住分離型事業所数に対して職住距離が500m以下の事業所数の割合が、輪島市で44%、山中町で47%、鯖江市で86%となっており、いずれの産地でも職住距離が500m以内で構成されている事業所が最も多いことがわかる。

産地別に職住距離をみると、輪島市では2500mまでは移動距離が大きくなるにつれて、事業所数が少なくなっている。山中町でも、1500mまでは、職住距離の拡大に伴い事業所数の減少がみられるが、1500m～2500mの間では事業所数が増加している。鯖江市では、1000m以上の移動はみられない。輪島市、山中町では1000m以上の職住距離もみられることから、鯖江市の事業者は他都市に比べ職住距離が小さいことがわかる。

(3) 事業所と住居の立地関係

表6.をみると輪島市では、中心市街地内での通勤が25.5%、中心市街地から中心市街地外への通勤が25.5%、中心市街地外から中心市街地への通勤が21.6%、中心市街地外での通勤が27.5%となっており、その割合に大きな差はみられない。また、図4をみると輪島市では事業主の住居は市域全域でみられ、市域全域で通勤が行われている。

山中町では、中心市街地内での通勤が2.7%と最も少なく、郊外での通勤が59.5%と最も大きくなっている。また、図4より事業主の多くが上原漆器団地へ通勤している。これより、仕事、生活の場はとも

表-6. 職住分離型事業所の事業所と住居の立地

	事業所住所	住居住所		計
		中心市街地	中心市街地外	
輪島市	中心市街地	13 (25.5%)	11 (21.6%)	24
	中心市街地外	13 (25.5%)	14 (27.5%)	27
	計	26	25	51
山中町	中心市街地	1 (2.7%)	6 (16.2%)	7
	中心市街地外	8 (21.6%)	22 (59.5%)	30
	計	9	28	37
鯖江市	用途地域	17 (68%)	1 (4%)	18
	用途地域外	0 (0%)	7 (28%)	7
	計	17	8	25

(注) 上段は事業所件数。()内は各産地内に立地している全事業所数に対する職住分離型事業所の割合を示す。

に郊外であることがわかる。

鯖江市では、用途地域内での通勤が最も多く、用途地域内から用途地域外や用途地域外から用途地域内への通勤は1件しかみられない(表6、図4)。事業所、住居ともに用途地域内に立地しており、用途地域内が就業の場であり生活の場であることがわかる。

5. 近年創業した事業所の場所選定理由

近年創業した事業所についてどのような志向性で場所を選定しているのかを分析する。

(1) 近年創業した事業所の概要

表7よりヒアリングを行った事業所は114件中37件である。表8より、輪島市では職住一体型が11件、職住分離型が1件、山中町では職住一体型が7件、職住分離型が2件、鯖江市では職住一体型が10件、職住分離型が6件となっている。

表-7. ヒアリング件数

	輪島市	山中町	鯖江市	合計
1988年以降に創業した事業所数	54	17	43	114
ヒアリングにより有効回答が得られた事業所数	12	9	16	37

表-8. 事業所の概要

職住形態	経営者名	業種	従業員数(人)	職住一体型に至る経緯				敷地面積(坪)				事業所面積(坪)			
				事業所と住居を同時に建築	住居建築後に事業所を建築	事業所建築後に住居を建築									
				事業所と住居を同時に建築	住居建築後に事業所を建築	事業所建築後に住居を建築									
輪島市	あ	加飾	2	●				4	0	8	0	1	0	0	0
	い	加飾	1	●				6	0	8	0	2	0	0	0
	う	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	え	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	お	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	か	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	き	販売	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	く	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	け	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	こ	販売	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
山中町	さ	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	し	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ア	塗装	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	加飾	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ウ	塗装	4	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	エ	塗装	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	オ	塗装	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	カ	加飾	3	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	キ	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ク	木地	8	●				0	0	0	0	0	0	0	0
鯖江市	ケ	木地	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	小計			5	0	2	0	2	1	3	1	2	1	0	4
	ア	販売	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	イ	木地	6	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ウ	加飾	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	エ	加飾	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	オ	販売	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	カ	販売	7	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	キ	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ク	販売	6	●				0	0	0	0	0	0	0	0
鯖江市	ケ	塗装	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	コ	販売	2	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	カ	塗装	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	キ	販売	3	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ク	加飾	4	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	ケ	販売	13	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	コ	加飾	1	●				0	0	0	0	0	0	0	0
	小計			4	4	2	2	2	0	0	6	6	1	3	1
	合計			15	9	4	6	8	2	3	8	10	4	3	2

(注) 経営者「あ」はアパートの一室にて事業を行っているため、敷地面積は賃借している全部屋の面積、事業所面積は事業を行っている部屋の面積とした。

表8より職住一体型に至る経緯をみると輪島市では「事業所と住居を同時に建築した」事業所が6件、「住居建築後に事業所を建築」した事業所が5件となっており「事業所建築後に住居を建築」した事業所はみられなかった。山中町では、「事業所と住居を同時に建築した」事業所が5件、「事業所建築後に住居を建築」した事業所が2件、「住居建築後に事業所を建築」した事業所はみられなかった。鯖江市で「事業所と住居を同時に建築した」事業所が4件、「住居建築後に事業所を建築」した事業所が4件、「事業所建築後に住居を建築」した事業所が2件となっている。3地区併せて「事業所と住居を同時に建築した」事業所が15件、「住居建築後に事業所を建築」した事業所が9件、「事業

所建築後に住居を建築」した事業所が4件となっており、「事業所建築後に住居を建築」したパターンが最も少ない。これより職住一体型事業所はまず住居の確立を行い、次に事業所をつくる傾向があり、職住一体型事業所の立地には事業所以上に住居という生活基盤の立地選定が影響していることがわかる。

次に、敷地面積をみると鯖江市では100～150坪の事業所が16件中6件と最も多く、山中町では80～100坪の事業所が9件中3件と最も多い。輪島市では40坪未満、40～60坪の事業所がそれぞれ4件ずつとなっており最も多い。事業所面積をみると鯖江市、山中町共に40～100坪の事業所が、それぞれ16件中7件、9件中4件と最も多くなっている。輪島市では10坪未満の事業所が12件中10件と最も多い。鯖江市は他の産地に比べ敷地、事業所面積ともに最も大きい。

以上よりヒアリングした37件のサンプル内の傾向だが、山中町は事業所面積は最も大きい、敷地面積は鯖江市よりも小さく、即ち事業所に使う空間の割合が鯖江市に比べて大きい。また輪島市は敷地・事業所面積ともに他の産地と比べて最も小さく、そのため場所の特性に関わらず住宅団地やアパートなどに立地していると考えられる。

また、3地区全体でみて事業所面積が30坪未満の小規模な事業所19件のうち14件が加飾業者となっている。また、加飾業者の大半が従業員が1人か2人と少ない。30坪以上の加飾業者は3件と少ない。これより加飾業者は他の業種よりも事業所面積が小さいことがわかる。近年創業した事業所37件のうち加飾業者が18件と最も多いのは、他の業種に比べ事業所面積が小さくて済むことが要因の一つであると考えられる。また、輪島市は最も加飾業者が多く、住居内の一室で事業が行えるため、住居の郊外化と連動して、事業所の郊外化が起こりやすくなっていると考えられる。

(2) 場所選定理由

新規に創業した事業所の場所を選定する理由を分析した。表9より職住一体型事業所についてみると、輪島市（「あ、い、こ、く、う、え、お、か、き、け、さ」）では、「自分の土地・建物があった」という地縁的理由が17回答中5回答と最も多くなっている。次に多いのは「住居との行き来が楽だから」という回答が17回答中4回答となっている。また、「自分の土地・建物があった」という5件の回答のうち3件が「住居との行き来が楽だから」という回答をしている。これより、輪島市では主に地縁的理由と「住居との行き来が楽だから」という生活志向による選定理由で場所選定がなされていることがわかる。さらに場所選定理由を類型別にみると「その他」が17回答中10回答、「生活志向」が5回答、「仕事志向」が2回答となっていることから、仕事志向よりも地縁的理由や生活志向により立地を選定している事業所が多いことがわかる。

山中町（「カ、ア、イ、ウ、エ、オ、キ」）では、「自分の土地・建物があった」と「住居との行き来が楽だから」という回答が14回答中3回答と最も多い。場所選定理由を類型別にみると「その他」が14回答中6回答、「生活志向」、「仕事志向」が4回答ずつとなっており、「生活志向」と「仕事志向」との間に差はみられなかった。

鯖江市（「a、b、c、d、f、g、e、h、i、j」）では、「自分の土地・建物があった」「住居との行き来が楽だから」「資材・商品の運搬に向いているから」という回答がそれぞれ21回答中4回答ずつと最も多く、次いで「同業者・関連業者に近いから」という回答が21回答中3回答

表-9. 新規に創業した事業所の場所選定理由

事業所所在地	経営者名	職住形態	場所選定理由															
			生活志向			仕事志向				その他（地縁的理由）								
			職住分離型	職住一体型	職住形態	自分の家を建てるため	住居との行き来が楽だから	実家に近いから	同業者・関連業者に近いから	騒音などの問題を考えずに済むから	作業スペースが広くとれるから	資材・商品の運搬に向いているから	観光客に見てもらえるから	知人の紹介	条件の良い空き家があった	行政の事業を利用した（区画整理事業）	自分の土地・建物があつた	土地が安く購入できた
輪島市	市中心地	あ	◎														◎	
		い	◎			◎											◎	
		こ	◎			◎						◎					◎	
	小計		4	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	
	中心市街地外	う	●													●		
		え	●		●				●									
		おか	●				●							●	●			
きけ		●				●										●		
し		●											●				●	
小計		7	1	1	2	0	1	0	0	0	0	3	1	1	2	1		
合計		11	1	1	4	0	1	0	0	0	1	3	1	1	5	1		
山中町	市中心地	カ	◎														◎	
		小計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	中心市街地外	アイ	●			●								●			●	
		ウ	●						●									
		エ	●				●											
		オ	●											●	●			
		キ	●			●											●	
クケ		●							●	●						●	●	
小計		6	2	0	3	1	3	0	3	2	0	2	1	0	3	1		
合計		7	2	0	3	1	3	0	3	2	0	2	1	0	4	1		
鯖江市	用途地域	a	◎										◎					
		b	◎						◎		◎				◎			
		c	◎		◎						◎				◎			
		d	◎															
		f	◎			◎					◎							
		g	◎			◎		◎									◎	
		k	◎							◎				◎				
		l	◎					◎			◎							
		m	◎								◎			◎				
		n	◎					◎							◎			
	小計		6	4	1	2	0	3	1	2	5	0	3	1	2	1	0	
	用途地域外	e	●					●			●						●	
		h	●			●		●									●	
		i	●								●							●
		j	●														●	
		o	●					●							●			●
		p	●			●											●	
小計		4	2	0	4	0	3	0	0	2	0	0	1	0	4	1		
合計		10	6	1	6	0	6	1	2	7	0	3	2	2	5	1		

注) ◎は中心市街地（鯖江市については用途地域）に立地している事業所
●は中心市街地外（鯖江市については用途地域外）に立地している事業所

となっている。場所選定理由を類型別にみると「仕事志向」が21回答中9回答、「その他」が7回答、「生活志向」が5回答となっており、場所選定時において生活志向よりも仕事志向により立地を選択している回答が多い。また、「仕事志向」の割合を他の産地と比べると、鯖江市で21回答中9回答、山中町で14回答中4回答、輪島市で17回答中2回答となっており、鯖江市が最も多い。鯖江市は、他の産地と比べて仕事志向により立地を選択する傾向がある。

職住分離型事業所（経営者名「し」、「く、け」、「k、l、m、n、o、p」）についてみると、鯖江市では「同業者・関連業者に近いから」「資材・商品の運搬に向いているから」という回答がそれぞれ15回答中3回答ずつとなっており最も多い。類型別にみると、「仕事志向」が7回答、「その他」が6回答、「生活志向」が2回答となっており職住分離型事業所においては当然ではあるが仕事志向により立地を選択しているが、しかし生活志向で事業所立地を選定している事業所も存在している。

山中町では、「作業スペースが広くとれるから」という回答が6回答中2回答と最も多い。類型別にみると「仕事志向」が4回答、「その他」が2回答となっており「生活志向」による回答はみられなかった。山中町の職住一体型事業所では7事業所中4事業所が生活志向により立地を選択していることから、職住分離型事業所は職住一体型事業所よりも「生活志向」により立地を選択する傾向は小さく、「仕事志向」により立地を選択していることがわかる。

次に事業所の所在地別に分析する。輪島市では中心市街地に立地している事業所、中心市街地外に立地している事業所ともに「仕事志向」により立地を選択している事業所はそれぞれ1件ずつとなっている。「仕事志向」よりも地縁的理由や「生活志向」により立地を選択している事業所の方が多いという点で立地による差はみられない。

鯖江市の用途地域に立地している事業所（「a、b、c、d、f、g、k、l、m、n」）では「仕事志向」による回答が21回答中11回答と最も多い。用途地域外に立地している事業所（「e、h、i、j、o、p」）では「その他」による回答が15回答中6回答と最も多く、次いで「仕事志向」による回答が15回答中5回答となっている。少ないサンプル数での傾向ではあるが、これより用途地域内に立地している事業所は、用途地域外に立地している事業所よりも「仕事志向」により立地を選択する傾向があることがわかる。

以上より、場所選定時において職住一体型事業所は職住分離型事業所よりも生活志向により立地を選択する傾向がみられる。職住一体型事業所では鯖江市では仕事志向により立地を選択する傾向がみられ、用途地域内で事業所が集積しているメリットを求めている傾向がみられる。山中町では地縁的理由をはじめとして生活、仕事、様々な理由で場所を選定しており、これは漆器団地に集まる事業所の傾向であると考えられる。輪島市では、他産地の職住一体型事業所と比べても生活志向により立地を選択する事業所が多く、仕事志向よりも地縁的理由や生活志向により立地を選択している。住宅の郊外化、住宅団地の郊外開発が事業所の郊外化に大きな影響を与えていることがわかる。

6. まとめ

本研究は、石川県、福井県の漆器産地を研究対象とし、産地ごとの業種特性と漆器関連事業所の近年の郊外化の実態を明らかにし、職住

形態や住宅立地や事業所の場所選定理由から住宅立地が事業所の郊外化にどのように影響を与えているかについて産地ごとの特性を明らかにした。得られた知見は以下の通りである。

- (1) 輪島市は近年加飾業が多く創業している。加飾業は事業所面積が小さく、住居内の一部で創業することも可能である。山中町は塗装業や木地業が多く、鯖江市では塗装業が多く創業しており、山中町や鯖江市は、輪島市に比べて事業所規模が大きい。
- (2) 輪島市、山中町、鯖江市でそれぞれ事業所の立地動向に傾向がみられた。輪島市では1988年以降事業所の郊外化が進行しており、郊外の住宅団地内に創業する事業所も多くみられた。山中町では1988年以前から、漆器団地の建設に伴い郊外化が進行している。鯖江市では用途地域内に事業所が集積し、創業もそこで行われている。
- (3) 3つの産地とも職住一体型の事業所の割合が8割を越えている。また職住分離型の事業所については、どの産地も事業所と住宅が500m以内の近距離に立地している。しかし、輪島市では中心市街地と中心市街地外、それぞれに事業所と住宅が同じ程度分散している。山中町では、事業所と住宅がどちらも郊外に分散している。鯖江市では事業所と住宅がどちらも用途地域内に集積している傾向がみられた。
- (4) 職住一体型の事業所に至る経緯では、住宅の確立をまず行ってから事業所を創業する傾向があり、事業所立地も住宅の立地選定が大きく影響している。
- (5) 事業所の場所選定理由では、3地区とも「住居との行き来が楽だから」など生活を志向して選定する事業所がみられる。事業所立地に住宅の立地や生活環境が大きく影響していることがわかる。
- (6) 輪島市は、特にその傾向が強く、加飾行程が多く、住宅内部でも創業できるため、住宅の郊外化の影響を受けて事業所の郊外化が引き起こされている。鯖江市では、仕事志向で立地を選定している事業所も多く、用途地域内で集積する利点を求めている。
- (7) 以上のことから、郊外住宅は手軽に創業できる安価な事業所を提供するという意味では創業の受け皿としての役割を果たしている。しかし、中心部の空洞化という課題と来訪者のために地域文化を発信する場として維持するためには、中心部での創業と住宅の立地は重要な要件である。中心部の住環境の改善や住宅付きの工房長屋の供給などにより創業者のための事業所と住宅の確保を行うなど、住宅施策による支援が必要である。

脚注

- (1) 例えば、鯖江市河和田地区の「漆のれん会」は気軽に漆を使ってもらうため低価格で現地で販売する問屋や店舗のネットワーク組織である。
- (2) 経済産業省が主要製造地域としている地域を伝統的工芸品の産地とした。また、主要製造地域が複数の地区にまたがる場合は、産地組合のある地区を産地とした。
- (3) 輪島市商工名鑑、山中漆器組合員名簿、越前漆器組合員名簿に分類されていた業種を職務内容から「販売」「加飾」「塗装」「木地」の4つに分類した（表10）。
- (4) 山中町・鯖江市では組合員名簿より、輪島市では2000年商工会議所登録データより得られた事業主名、事業所住所のデータと電話帳に「個人名」として記載されている氏名、住所とを比較検討した。事業主名と電話帳に記載されている氏名が一致かつ事業所住所と電話帳に記載されている住所が一致したものを「職住一体型事業所」とし、事業主名と電話帳に記載されている氏名が一致するものの事業所住所と電話帳に記載されている住所が一致しないものを「職住分離型事業所」とした。また、電話帳より事業主と同じ氏名が確認できなかったものを「不明」とした。

(5)「輪島市中心市街地活性化基本計画」により中心市街地と定められた区域に設定した。その中心市街地は、中心商店街（本町商店街、わいち商店街、まんなか商店街、馬場崎商店会、駅前商店会、新橋）が含まれ小売業が集積している地域、人口密度が高く居住機能が集積している地域、都市機能が集積している地域という要素を考慮し設定されている。一方、研究の目的において中心市街地は事業所や住宅や店舗が複合した伝統工芸産地のまちなみを通して地域文化を体感できる地域であると定義しており妥当であると判断した。

(6)「山中町中心市街地活性化基本計画」により中心市街地と定められた区域に設定した。その中心市街地は「山中座菊の湯」を中心としてそこから徒歩圏（概ね1km以内）で観光客が主に回遊している温泉地区を中心にした区域と設定されている。一方、研究の目的において中心市街地は来訪者が事業者との交流を通し地域文化を体感できる地域であると定義しており妥当であると判断した。

(7) 上原漆器団地は、山中漆器の量産体制の確立を図り1965年に造成した。これにより中心市街地から上原漆器団地へと事業所が移転した。出典：「山中町史現代編 1995年発行」,pp301」

(8)「丹南都市計画（鯖江市）特別用途地区のあらまし」により用途地域と定められている地域に設定した。

参考文献

- 1) 佐久間康富、後藤春彦：「ファクトリー・ツーリズム」の可能性と限界―墨田区におけるニット産業を事例として― 日本都市計画学会論文集 ,pp373～pp378,1999
- 2) 玉井明子、久隆浩：伝統産業を軸としたイベント活動と観光まちづくりの円滑化に関する一考察 日本都市計画学会論文集 ,pp271～pp276,1997
- 3) 野嶋慎二：眼鏡関連産業の立地動向と職住形態特性に関する研究 第14回環境情報科学論文集 ,pp373～pp378,1999
- 4) 輪島市：輪島市中心市街地活性化基本計画 ,2000
- 5) 山中町：山中町中心市街地活性化基本計画 ,2001
- 6) 鯖江市：丹南都市計画（鯖江市）特別用途地区のあらまし ,2001
- 7) 山中町：山中町史現代編 ,1995
- 8) うるしの里づくり協議会：うるしの里づくりガイドライン ,1995

（2004年2月10日原稿受理、2004年9月8日採用決定）

表-10 産地ごとの業種の類型化

	輪島塗	山中漆器	越前漆器
木地	角物木地 曲物木地 指物木地 朴木地 椀木地 研物	成型 成函 木地 下地	樹脂 木工
塗装		塗装	塗装
加飾	蒔絵 呂色 沈金	上塗り 蒔絵	加飾
販売	漆器製造 販売業	製造卸し	製造販売